

キャリア・パスポートの活用

既存の記録を読み返し、対話を通して自分の変化と次の目標を考える教材として使います。

使う場面	教師の関わり方の例
活動前・学期初め	過去の記録を 1 つ選び、今の目標を本人と確かめる。
活動後・学期末	経験した場面と、考えや行動の変化を言葉にする。
対話の時間	記述の理由を聴き、次の一歩や必要な支援を一緒に考える。
学年・校種の節目	本人の記録を整理し、学校の手順に沿って引き継ぐ。

特別活動を要として教科等の学びとつなぎます。既存様式を生かし、この資料のシートは必要に応じて置き換え・組み込みます。

記録を対話に生かす計画シート

新しい記録を増やす前に、今ある様式・時間・引継ぎの手順を確認します。

確認する項目	記入欄（案内文は書き換えて使えます）
対象・時期 学級活動／ホームルーム	
読み返す既存の記録	どの教科・活動の、いつの記録を使うか。
本人と確かめる問い	以前の自分と比べ、何に気付いたか。
対話の方法と必要な支援	個別・ペア・口頭など。共有する範囲も相談する。
次の行動と読み返す時期	学習・生活のどこで試し、いつ振り返るか。
保存・引継ぎの方法と担当	既存様式との関係、管理場所、学校の規則を確認。

低学年や支援が必要な児童生徒には、絵・口頭・代筆などで参加できる方法を選びます。

前の記録から、次の一歩へ

日付	年	組	名前	活動名
1 読み返したのは、 いつの、どんな記録？				2 そのときの自分と今の自分。 変わったこと、 変わらないことは？
3 気付いたよさ、気になること、 相談したいことは？				4 次に気になることや、試したいことは？ いつ読み返す？ まだ考え中でも OK。

書けないところは、先生と話して考えられます。だれにどこまで見せるかは、先生と相談できます。

振り返りシートの記入例

書き方の例です。本人の経験と言葉を大切に、対話に生かします。

1 読み返したのは、 いつの、どんな記録？ 1 学期の記録。 「質問するのが苦手」と書いた。	2 そのときの自分と今の自分。 変わったこと、 変わらないことは？ 今も緊張する。 でも、聞いてみたいことがある。
3 気付いたよさ、気になること、 相談したいことは？ メモがあると話しやすい。 質問の準備を先生と相談したい。	4 次に気になることや、試したいことは？ いつ読み返す？ まだ考え中でも OK。 来週の学級活動でメモして質問。 月末にこの記録を読み返す。

前のページの白紙シートを使い、次にすることや、相談したいことまで一緒に考えられます。

07 の授業と振り返りの例

以下は架空の例です。学校の目標や児童生徒の実態に合わせて組み替えます。

校種・場面	目指す姿・使い方	児童生徒の言葉の例
小学校 学期の振り返り	係活動の前後の記録を比べる	前は頼めなかったけれど、友達に手伝ってと言えた
中学校 体験後の学級活動	体験前の目標と今の考えを比べる	質問するのは苦手。でも、知りたいことは聞いてみたい
高校 学年の節目	探究と日常の学びをつなげて読む	聞き取りで使った準備の方法を、次の探究にも使う

中学校の架空例。前の記録は「質問が苦手」。今の記録は「知りたいことは聞いてみたい」。先生は「どんな準備があると聞けそう？」と聴き、本人の選択を支えます。

次の行動の例：来週の学級活動で、聞きたいことを1つメモして質問する。月末に記録を読み返す。

10 分の校内研修と参考資料

既存の学年会などで使えます。最後に、授業で試すことと確認日を 1 つ決めます。

2 分：現在の様式と、実際に読み返す時間を確認する。

5 分：記入だけで終わる場面を 1 つ選び、対話の問いを考える。

3 分：次の活用日と、引継ぎ・個人情報の扱いを確認する。

記録は A4 判、各学年の蓄積は数ページ（5 枚以内）とする留意事項があります。入試・就職試験でのそのままの利用は適切でないと示されています。

文部科学省の参考資料

中学校・高等学校キャリア教育の手引き（2023 年 3 月）第 4 章 pp.111-112

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/detail/mext_00010.html

「キャリア・パスポート」Q&A（令和 4 年 3 月改訂）問 2・3・5・6・8

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/detail/1419917_00001.htm

本資料は手引き等を参考にした吉田正之のオリジナル資料です。文部科学省の公式様式ではありません。学校内の授業・研修に印刷・編集して使えます。ページ番号は冊子の表記です。

体験の記録を対話に生かす 20 分

モデル案：中 2 ・職場体験後の学級活動。学校の既存記録を使い、本人が話したい場面から始めます。

ねらい：体験前の自分と今の考えを比べ、次に確かめたいことや必要な支援を考える。
準備：本人の体験前後の記録。共有する部分は本人と相談し、学校の管理方法に沿って扱う。

時間	生徒が考え、行うこと	先生の問い・関わり
3 分	読み返したい記録と、気になる一文を選ぶ。	『どこから話してみたい？』と入口を選べるようにする。
5 分	前の自分と今の共通点・違いを考える。	『今も大切なことは？』変わらない点も聞く。
7 分	個人・ペア・先生との対話から方法を選ぶ。	『どんな場面？』『何があるとできそう？』と聞く。
5 分	確かめたいことや相談先、読み返す日を考える。	考え中でもよい。次の確認の機会を残す。

記録を増やす量より、読み返して話し合う使い方を大切にします。今回の記録から蓄積する部分を選び、学級活動・ホームルーム活動での意思決定につなぎます。

言葉が出にくいときの対話例

架空のやり取りです。本人が話せる範囲を確かめ、問いを一つずつ選びます。

本人の言葉	先生が返す問い・選択肢	記録すること
『楽しかった』	『どの場面が残っている？』 絵やメモから選んでもよい。	本人が選んだ場面と、その理由。
『変わっていない』	『今も大切にしていることは？』 今の考えを聞く。	変わらない思いと、本人の説明。
『分からない』	『気になる言葉に印を付ける方法もあるよ』 と提案。	考え中であること、選んだ方法や必要な支援。
『今は話したくない』	『手元に残す・後で個別に話す方法も選べるよ』 と伝える。	学校で必要な範囲の支援。共有範囲は本人と相談。

次の行動をすぐ決めることが難しい場合は、残った問いや相談したいことを扱います。記入例を正解として写させず、本人の言葉と教師の解釈を分けて記録します。